

ペットと人が共に生きるための法律がある

しっかりと守らないと、
罰せられるワン！



日本にはいろいろな法律がありますが、動物にかかるものもあります。そのひとつが、「動物の愛護及び管理に関する法律」です。

この法律では、すべての人が「動物の愛護」の心を持ち、また動物の習性を理解し、人と動物が共に生きるための様々なことが定められています。

飼い主が守らなければいけないこと

- ① イヌを飼い始めたら市町村に必ず登録する(狂犬病予防法)。
- ② イヌは必ず毎年狂犬病予防注射を受ける(狂犬病予防法)。
- ③ イヌを散歩させるときは、リードをつけなければならない
(各自治体の条例など)。
- ④ 殺したり、傷つけてはいけない。
- ⑤ 水やエサを与えてはいけない。
- ⑥ クサリにつないだまま、雨や風のあたる場所に置きっぱなしにしてはいけない。
- ⑦ 病気やけがをしたら病院に連れて行くなど、手当てをしなくてはいけない。
- ⑧ 見捨ててはいけない。
- ⑨ ペットがまわりの人にけがをさせたり、逃げたりしないように気をつける。
- ⑩ イヌやネコが増え過ぎて飼えなくなるのを防ぐため、子どもが産まれないように制限するよう気をつける。
- ⑪ 命を終えるまでキッチンと飼うよう努力する。



見捨てられた子
ネコや子イヌは
そのまま死んでし
まうことも……。



散歩のときは、首と体、2本のリードをつけるとより安心です。

ペットショップやブリーダーが守らなければならないこと



- 20時以降、イヌやネコをお客さんに見せたり、さわらせたり、引き渡してはいけない。
- イヌやネコをお客さんに直接見てもらい、生年月日や特徴、飼い方などを伝えなければならぬ(インターネット販売は禁止)。
- 販売前または生後120日のどちらか早い方のマイクロチップ※を装着しデータベースに登録しなければいけない。
- 子どもを産ませるためのイヌは、基本的に6回以上出産させてはいけない。
- 生後57日を過ぎてからしか子イヌ、子ネコを売ってはならない。
- 売れ残ったイヌやネコは、最後まで責任を持って飼育してくれるところに引きつがなくてはいけない。

※アンテナICを内蔵した電子タグ。15桁の数字が記録されており専用リーダーで数字を読み取り、データベースに登録された飼い主の情報を照合できる。



イヌの幸せを考えた 飼い主になるために

イヌを飼い始めるときには、「あんなことをして遊ぼう」「こんなこともしたい」と、楽しい想像が広がります。たしかにイヌのいる暮らしは楽しいことが多いですが、それ以上に、思い通りにならないこと、想像していなかった苦労もあるのです。

それでも、イヌの幸せに気を配り、イヌの命が尽きるときまで飼い主としての義務や責任をはたすことが大切です。

●しつけをする

もしも、飼い主がしつけをしなかったら、どんなことが起きるでしょうか。きっと、かみついたり、ほえたり、物をこわしたり、いろいろな場所でトイレしてしまうでしょう。すると、飼い主が困るのはもちろん、まわりの人にも迷惑がかかります。そして、イヌも怒らればかりで幸せにはなれません。

また、しつけをしないと、道路に飛び出して事故にあうかもしれません。

つまり、しつけは「人間社会の中で生きる、イヌの幸せのため」そして、「イヌの安全や命を守るために必要なのです。



トイレのあと、きれいにするのは飼い主の責任

●イヌはほめられるのが大好き！

教えたことができたとき、飼い主は笑顔で「GOOD！」「よくできたね」「おりこうだね」などと言葉に出してほめてあげます。体をやさしくなり、ごほうびのおやつをあげるのも効果的。イヌはほめられるのが大好きなのです。



できない時も、決してどなったり叩いたりせず、できるようになるまで根気よく付き合いましょう。あきらめずにくりかえすことで、確実に成長します。

●健康に気をつける

基本的に、イヌは毎日の散歩が必要です。運動不足を防ぐだけでなく、ストレスを解消するためにも散歩はとても大切です。「めんどくさい」「いそがしい」など飼い主の都合で、家の中にとじこめたままではいけません。

また、予防接種や定期健診を受けさせ、いつもと様子がちがうときは動物病院に連れて行きます。



●食事に気を配る

イヌの年齢や種類によってエサの量や種類が違います。本で調べたり、専門家に相談するなどして、正しい食事を与えましょう。また、人間の食べ物はイヌにとって塩分などが多過ぎるので、イヌ専用のエサを与えます。また、食べてはいけないものがあるので注意しましょう。



●ケージに入ることに慣れさせる

①車の移動ではイヌの安全を守ることにつながります。さらに、災害時のことも考えて、日ごろからケージに入る訓練をしておきましょう。

②「せまい中に押し込めるのはかわいそう」と思う必要はありません。

③イヌは大昔、穴を掘って生活していました。そのため、せまい空間に入ると落ち着きます。

④上手にできたら、たくさんほめてあげましょう。



ペットを飼うには 覚悟が必要

ペットのいる生活は楽しそうです。エサをあげたり、いっしょに遊んだり、散歩に連れて行ったり、特別な毎日が待っている気がします。

だから、「飼っちゃダメ」と言われても、「ちゃんと世話するからお願い、飼わせて!」と、家人を説得したくなるのです。

お世話は楽しいことだけじゃない

けれど、ペットのお世話は想像以上に大変です。

エサを食べさせ過ぎたり、人間の食べ物をあげると病気になってしまいます。決まった時間に、決まった量を考えて与えないといけません。食器だって、一回一回きれいに洗っておく必要があります。

動物ですから、臭いいうんちやおしっこもします。決まった場所でできるようになるには時間がかかるので、それまでは、床やイスの上にされてしまうこともあります。

また、散歩の途中のトイレの片づけも飼い主の責任です。

体をきれいにしてやったり、暑い日も寒い日も、毎日散歩に連れて行ったり、ペットのお世話に365日休みはありません。自分の好きな時だけ遊んでやって、あとは知らんぷりではダメです。



ペットにも心がある

みんなにも心があるように、ペットにも心があります。やさしくされたらうれしいし、怒られたり、無視されたら悲しくなります。いやなことをされたら、かみついたり、ひっかくこともあります。

「遊んでほしいのかな?」「今は眠いのかな?」「散歩に行きたいのかな?」

「どこか具合が悪いのかな?」「お腹すいたかな?」

飼い主はいつもペットの気持ちを考えてあげなくてはなりません。



どんな時も、毎日お世話を続ける

イヌの平均寿命は14.6歳、ネコは15.7歳です※。

今から子イヌや子ネコを飼い始めたとして、約15年間、毎日毎日、ちゃんとお世話ができるでしょうか。

友だちと遊びに行きたい時、部活動や勉強が忙しくなった時、「ちゃんとお世話をする!」という約束を守れるでしょうか。

ペットは病気になりますし、年を取って思うように体が動かなくなることもあります。ずっと寝たきりで、毎日看病しなくてはならない時もやってくるのです。

※ 2021年全国犬猫飼育実態調査より

ペットを飼うなら覚悟する

「なん年も毎日お世話するなんて、自分には無理。だからペットは飼わない」

この決断も、ペットに対する立派な愛情です。

「大変だと思うけど、やっぱり飼いたい!」

もし、そう思うのなら、覚悟を決めてペットの命がつくるときまでがんばってお世話をしましょう。



毎日、きちんとお世話をして、つらいことも、大変なことも乗り越えたとき、ペットは幸せを感じてくれるはずです。

ペットの幸せは、あなたの覚悟にかかっているのです。